

黒ことは、豊後淨瑞齋

邊縫羅城門鬼退治

会員 本五村井之上 又々々 宮 水

「門ちゆう延イ懇が出百キイ、おが行ち平ナチ來イ方ナ  
えキイ、今日は行かにやならん。」  
「ほんをト旦那、うんだあム連れち行ち吳百イやア  
いいだ」

「いんべやそりセアならんど、おじもんの出る延じ  
やキ、わいどんようなよろけへン行く延じや叔え。  
早々玄関口イ馬ウまあせ」

昔からお七こちの村里に、諸々巧者  
がいて、座敷が何かの太牌の口三昧録  
を時々そえての豊後淨瑞齋、今席は  
番正川の上流、山里の言葉を連ねて  
の熟演 東西東西

第一段

「家シ人カまお見、ちくさい。義政とモ  
そばえ言う波カ聞きよへたが、傳シおへまア  
シ舞ガリ赤ベくウかきかき泳ギ出セ、綱シ胸食にし  
がみつき。  
「家シ人カまお見、ちくさい。義政とモ  
石子に、ベえウ様イハシ行ちくれんで、着物ア着くじ  
いいち、コシ米シ高えに、うんだお盛飯ア炊えちやあ  
やんせんどな」

ちゅうち、手鼎カみかみかき口説ア、綱アしよわしがり、  
「何う言フ、女子供ン知うた二つか」  
と、おへまン尻がぶウ蹠つちけあぐ生や、おへまア一女  
いたよウ」ちカラチ、臭工屁を「ブリ」とたれだ。

昔々、渡辺ン綱古、うち、ふうざまお松元、張い奴が有  
「左んちゅう。そん娘ア上ン台ケイ下ン地、四脚子、お  
ス、ちやあらん、傳工奴なり。」

朝シ疾う、外生け衣起子、裏ノ溜池イツ、うじ行チ、  
面ウ上リ下リ、二三べんけ、えなせチ、昨夜ノ残りん稚羅  
焼ウ四五杯ム、さぞ喰かち、今度アガタガタガタと雪籠  
にかけ込ウド、糞ウ小山ンしこほすベタベタベタ  
ヒハトサト、  
ささて、下男の凹助が蹴つちけ起イ

「あち  
「施ア歌空う、源シ頬光どんの延イ行つたり、近頃羅城  
城」

四助ア馬屋ノ中カリ、瘦馬オ一疋、大曳き出し、ヤ  
綱ア玄関口カリ、古い斗掛け踏台に、瘦馬エヒラリ「  
と打。またか、馬ノ胴腹オ、どひび、蹴つたれ成、  
馬頭ア、いまく、風ア吹く吹く、早や羅城門ヘと着  
き。

ベントンベルーンベンベン

## 第二段

さあで、羅城門ちかうとこりて来ちよ。見たり、なんど  
んぐんとん知れんおじいんが、黒雲くろくもの中からばやうと手  
差さい出エち、綱つなンえり振ふウ、あしと手つこうじ、おつち  
にやぶらぶら、こ一七いつにやぶらぶら振ふくいまわし  
や、綱つなア行ゆこどへすりや、まちよちよちよち、戻もどつすり  
やアどちどちどち、行くも戻もどるもまりやせん。

綱つなアはぎらしががへて、家裏いえのうちへ舞まいねる、腰こしだんび

ひアすらりと引き抜ぬけいち、

「切石きぬな反切れんを鐵てつ冶座冶場親父おやぢ打う延のばよう」

配ばいえい具ぐ食くじや、おれエ 光みつれエ」

古いやうち、めとく、とうに振りくり

廻まわえいち、「やあ」

とばかうに鬼きシ片かた飛とう切りおとしや、おやア

「アイタ、タ、タ、タ。綱つなア、やうあかへたナ。憶おぼいぢ  
よれ。此こ怨怨ア三日さんじつかじ晴はじめあこうか。」

ちゅうち、黒雲くろくも上う、イ舞まいい上う、ち 東ひがシ方がたへと失うせ

けり。 ベロべーん ベスべーん べん べん

## 第三段

。 。 。 おアテ、二夜よ、三夜よ、明あけ、ん頃ごろ、東ひがシ方がたか、

高下たかげ鬼きシ伯母おばエ化かけか、がほんこ不ふん、からんこらん  
人ひと、綱つなシ伯母おばエ化かけか、がほんこ不ふん、からんこらん

「綱つな、綱つな、わりやこないだけしく、かやらん大手板おお

やおお、小こかええ、たたちちかうじやねえか。そん鬼きシ手てちゅうも

ぬう俺おのイ見みせ、ちぐりいい。

「其奴その子こ伯母おばやん、魔物まつじやアキ見みせられん」

「わリヤそげんへ、たんたん、言いうち、本當ほんとうア元もとへ、ち  
き、ちよらんちよらんのじやろうが」

そば、言いわいイやア、綱つなア根ねは人ひとが善よく、おがん

手て極ききちよらへと見みいの」とせがままりりや、

「目めなり伯母おばやん、ちよびちよびへとだけどな」

ちゅうち立ち上あがり、紺戸くじ戸奥おく櫛櫛中なかが、鬼き人ひと

腕うで取と出だえいち見みすりる、伯母おば母めおへ取とつとええ、

ほほう、綱つなよい、鬼き手て、ゆうえゆうえ青あおいような黒くろ

ままう。ああ、こお札ふりこれ、これこすす俺おのがん手てとそ

つつくくじや」

古いやうち、そんまま懷 怀イ押おしくうじ、土間どま天井てんじやう飛と

上あがおお、煙えん出だしきけ破はつち黒雲くろくも乗の、古い宙くう六天ろくてん。

と逃とげげ失うせせ。

綱つなア庭いえ戸とにだき、へ、い、不ふか、

一元いんエエししもううた。だまさまれれ左さか、

と、男泣おとづれき、ここぞ、泣なききへける。 ベスべーん ベロべーん

べべーん ベスべーん べん べーん

(注) (1) オオカカとここは、帝だい瑞ずい綱つなで

(2) い、い、い、はおむね里さとことば、(振假名ふりかな)の關係かかり、つけ

(3) 里さとはへ方か言いなまきまきの添削てんざつ、試ためされ

地域ちいきの物語ものがたり、諸よう物ものとし、何かの節座せつざ興おきととて

一帝だい廣ひろいへいかが。